

データで見る日本企業

－21世紀の経済・企業を把握する統計とは－

平成15年2月7日

経済産業省調査統計部 田辺孝二

1. はじめに

日本の大学は米国の大学よりも研究費・研究者が多い！？

2. 転換期にある日本経済 3つの中長期的な調整局面

- バブル崩壊・資産価値の大幅低下への調整
- 経済活動のグローバル化・低成長への調整
- モデルのない時代・失敗が必要な時代への調整

3. データで見る日本企業

・ダイナミックに活動する日本企業

景気回復が実感できる企業は5割程度

中国でみんな成功しているわけではない

・中小企業が経済再生に重要

・日本が持つ大きな発展ポテンシャル

競争力の源泉は「人間」

活用していない人的パワー 「大学」、「外国人専門家」、「女性」

4. 21世紀の統計のあり方

・「政策のための統計」→「自分たちの未来のための統計」

- 「業種」から「業績」別の統計へ → 叱咤激励する統計

- 「数量の変化」から「実質価値の変化」を示す統計へ

- 社会の目指すべき方向に対応した統計へ

「モノに対する投資」から「人に対する投資」重視の統計枠組みへ

・変革を促す統計に対する社会としての投資

ビジネス活動の総合的把握、地域経済の実態把握など必要な統計拡充

・大学における実践的な統計教育・研究の拡充